



変化を楽しむ人であれ

京都橘大学

京都橘大学 コメンテーター 一覧

2025年6月版

＜お問い合わせ＞

京都橘大学 広報課

TEL : 075-574-4112(直通)

Eメール : pub@tachibana-u.ac.jp

目次

工学部	P 2
人工知能 (AI)	P 2
ロボット情報学	P 3
情報工学	P 4
近代建築史	P 7
建築	P 8
文学部	P 9
近代日本文学	P 9
近世文化史	P 9
日本史	P 10
考古学	P 11
図書館情報学	P 11
国際英語学部	P 12
英文学	P 12
サステイナビリティ教育	P 12
発達教育学部	P 13
教育	P 13
防災	P 14
総合心理学部	P 15
臨床心理学	P 15
社会心理学	P 16
健康心理学	P 17
経済学部	P 18
キャリアデザイン	P 18
地域開発	P 18
観光ビジネス	P 19
公共政策	P 19
国際金融	P 20
国際経済	P 20
国際政治	P 21
医療	P 21
食・農業	P 22
サブカルチャー	P 22
経営学部	P 23
アクティブラーニング	P 23
スポーツマーケティング	P 23
企業組織・制度	P 24
CSR (企業の社会的責任)	P 25
アントレプレナーシップ	P 25
地域創生	P 26
金融	P 26
国際経営	P 27
社会政策	P 27
看護学部	P 28
精神看護学	P 28
シミュレーション教育	P 29
健康科学部	P 30
神経科学	P 30
リハビリテーション科学	P 31
作業療法	P 32
救急医学	P 34
臨床検査	P 37
医化学・分子生物学	P 39
臨床工学	P 39

教員情報
掲載ページQR



人工知能 (AI)

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

松原 仁 (マツバラ ヒトシ) 日本のAI黎明期を支えてきた ユニークなプロジェクト研究のパイオニア

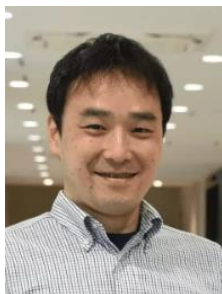


- ①工学部 情報工学科 (工学部長・情報学教育研究センター長)
- ②教授
- ③博士 (工学)
- ④人工知能 (AI) / **生成AI**、スポーツAI、**将棋AI**、**囲碁AI**、AIの社会への影響、機械学習、**ロボカップ**、**鉄腕アトム**
- ⑤東京大学大学院修了
40年ほど人工知能 (AI) の研究に携わっており、最近では生成AI、スポーツAI、ゲームAI、公共交通へのAIの適用などの研究を進めている。目標は鉄腕アトムを実現すること。

<一言コメント>

人工知能 (AI) の歴史に精通しています。また、チェス・将棋・囲碁などゲームAIに興味を持っていて、人工知能 (AI) が人間の生活にどう影響を及ぼすかについて考えています。

西出 俊 (ニシデ シュン) 自ら環境に適応し、経験から学習して進化する ロボットや人工知能 (AI) の実現を目指す



- ①工学部 情報工学科
- ②准教授
- ③博士 (情報学)
- ④人工知能、ゲーム情報学、**知能ロボティクス** / 認知発達ロボティクス
- ⑤京都大学大学院修了

これまで15年ほどロボットを研究。学生のPBL(Project Based Learning)活動を通じて様々な**ゲームを制作**しており、その中に**AIを実装する研究**をしています。他には**AIによる作画支援**を行うシステムも構築しており、AIが提案する作画に対して、修正を加えることができるシステムを制作しています。

<一言コメント>

ゲームエンジン等を使わずにゲームを制作することを目標にしており、「人狼」のような推理型ゲームを対象とした**AIプレイヤーの構築**も研究対象としています。

ロボット情報学

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

小野 哲雄（オノ テツオ）ロボットと人間の関わりについて考える ヒューマンエージェントインタラクションの第一人者



- ①工学部 情報工学科
- ②教授
- ③博士（情報科学）
- ④ロボット情報学、ヒューマンロボットインタラクション、ヒューマンエージェントインタラクション／ITACOシステム、憑依するエージェント、環境知能
- ⑤北陸先端科学技術大学院大学修了
人間とエージェント(AIやロボット)の相互作用を意味するHAI(ヒューマンエージェントインタラクション)を世界に先駆けて研究。2013年より、国際会議HAIの運営委員会議長を務める。情報処理学会フェロー。

<一言コメント>

AIが登場してからのロボットは、コミュニケーション力が急速に高まっています。**生成AIに次ぐトレンドとしてAIロボティクスが注目されていく**と考えています。

情報工学

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

大場 みち子（オオバ ミチコ） 知的活動の思考プロセスの測定と分析に関する 独創的な研究を行う



- ①工学部 情報工学科
- ②教授
- ③博士（工学）
- ④情報学／**知的行為・行動の記録と分析、PBL支援、ラーニング・アナリティクス、教育システム、情報システムの構築、ドキュメント・コミュニケーション**
- ⑤大阪大学大学院修了
プログラミング・作文などの知的行為（action）をパズルの操作から分析・活用するシステムを研究。知的行為・操作の記録（measure）に着目している。

<一言コメント>

プログラミング、作文などの知的行為を分析し、それを通じて新たな指導法を開発しています。この先進的なアプローチは、複数大学での授業や一流企業のICT人材育成にも採用されています。

片岡 裕介（カタオカ ユウスケ） 地理的空間情報の可能性を探る



- ①工学部 情報工学科
- ②准教授
- ③博士（環境学）
- ④**空間情報科学、都市解析／地理情報システム、危機事象の視覚化**
- ⑤東京大学大学院修了
高齢化社会における都市環境のあり方などを、空間情報を活用して探求中。高齢化とコロナ禍による人々の行動変化に直面する社会で、空間情報の重要性はさらに高まる。

<一言コメント>

位置や場所を示す地理的空間情報を用いることで、都市計画から医療まで多岐にわたる分野で社会課題の解決につなげていきます。

情報工学

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

加藤 諒（カトウ リョウ） ビッグデータを活用し、“便利さ”を創るための基礎



- ①工学部 情報工学科
- ②専任講師
- ③博士（情報学）
- ④Web情報学／データマイニング、知覚情報処理、画像処理
- ⑤関西大学大学院修了

SNSユーザーの行動・属性分析、構造物の維持管理、ARアプリなど、データマイニングを応用する技術は幅広く、来るべきSociety5.0時代に必須な重要テーマを専門としている。

＜一言コメント＞

世に氾濫する膨大なデータから役立つものをいかに収集・整理・分析するかは、超スマート社会において大変重要な役割を担っています。

杉浦 昌（スギウラ マサシ） 組織のセキュリティ対策のエキスパート



- ①工学部 情報工学科
- ②教授
- ③博士（工学）
- ④情報セキュリティ、情報ネットワーク、通信工学／
組織のセキュリティ対策、セキュリティマネジメント、セキュリティ認証
- ⑤電気通信大学修了

セキュリティマネジメントを専門とし、**長く民間企業や国・官公庁のセキュリティ対策に従事**してきた。特に組織のセキュリティ対策や、官公庁のセキュリティ関連のさまざまな委員会活動、**セキュリティの国際標準規格の作成や、それに基づいた認証制度の立ち上げと推進**に携わるなど、多彩な経験がある。

＜一言コメント＞

情報セキュリティ対策は、技術的な方策だけでは限界があります。
技術だけでなく人も組織も含めた「情報セキュリティマネジメント」の重要性が、昨今高まっています。

情報工学

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

沼尾 正行（ヌマオ マサユキ） 音楽を用いた脳マネジメントシステムの社会実装を目指す



- ①工学部 情報工学科
- ②教授
- ③博士（工学）
- ④人工知能、感性獲得／自動プログラミング、感性に基づく自動作曲、生体信号（脳波、脈波など）に基づく感性獲得
- ⑤東京工業大学大学院修了

アンケートや、脳波、脈波などの生体信号に基づいて、感性を獲得する研究を行っている。その応用として、脳波に基づく自動作曲による音楽療法を試みている。また、日本学術振興会学術情報分析センターで、学術情報の分析にも取り組む。

<一言コメント>

人工知能を応用したシステムについて長い経験があります。特に論理に基づくシステムに興味があります。また、生体信号の解析を行なっていて、その教育への応用も展開しています。

東野 輝夫（ヒガシノ テルオ） 日本を代表するIoT推進の担い手



- ①工学部 情報工学科（情報学研究科長）
- ②教授
- ③博士（工学）
- ④情報ネットワーク／モバイルコンピューティング、IoT、センシング
- ⑤大阪大学大学院修了

スマホやモバイルを活用したヒト・モノの位置行動推定や状況把握技術、災害支援や交通、健康・医療関連ICTの研究を推進している。
Society5.0社会に寄与する様々な課題解決に向けた技術開発に携わる。

<一言コメント>

日本学術会議会員や情報処理学会副会長を歴任し、現在も文部科学省Society5.0実現化研究拠点支援事業「ライフデザイン・イノベーション研究拠点（大阪大学受託）」の研究開発課題責任者を兼務しています。

近代建築史

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

河野 良平（コウノ リョウヘイ）モダニズム建築の地域による進化や変化の違いを考察



- ①工学部 建築デザイン学科
- ②准教授（一級建築士、インテリアコーディネーター）
- ③博士（デザイン学）
- ④**建築歴史・意匠、日米の近代建築史／グーギー建築、モダニズム建築**
- ⑤筑波大学大学院修了

日本のモダニズム建築と代表的な建築家について研究している。近年は**戦後のアメリカ建築、特にグーギー建築の意匠上の特徴**について研究を進めている。

<一言コメント>

モダニズム建築の地域による進化や変化の違いを考えています。日本で言う「ファミレス」がどのような理由で生まれ、広まったかを調べています。

建築

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

半海 宏一（ハンカイ コウイチ） 建築設計の思考と手法の両方を模索し研究



- ①工学部 建築デザイン学科
- ②准教授（一級建築士）
- ③博士（工学）
- ④建築設計、建築意匠／近代建築家の設計湯法
- ⑤名古屋工業大学大学院修了
オランダの近代建築家W.M.デュドックの**建築思考・手法**について研究している。実務では京都を拠点に住宅建築や小規模な店舗建築の設計を手がけており、**木造建築や町家の再生、地域のまちづくり**にも積極的に関わっている。

<一言コメント>

研究成果で得られたことを自ら実践することで、**建築設計の思考と手法**の両方を模索しています。
自ら材料に触れ、**設計と施工の難しさや違い**を考察しています。

松本 正富（マツモト マサトミ） 人にやさしい住宅のデザイン・居住環境



- ①工学部 建築デザイン学科
- ②教授（一級建築士、インテリアコーディネーター）
- ③博士（工学）
- ④建築計画、建築デザイン／住宅設計、高齢者居住、ユニバーサルデザイン
- ⑤千葉大学大学院修了
住宅設計の分野で多くの実績を有し、特に**現代住宅のデザイン、高齢者の居住環境、公営住宅の在り方**について研究を進めている。

<一言コメント>

建築や居住環境は、工学的側面だけでなく、文化的、美学的な要素など多方面の考察も求められる奥が深い世界です。

日本近代文学

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

野村 幸一郎（ノムラ コウイチロウ） アニメや漫画を文学者視点で読み解く



- ①文学部 日本語日文学科
- ②教授
- ③博士（文学）
- ④日本近代文学、日本近代思想史、比較文化、現代日本文化／三島由紀夫、森鷗外、白州正子、**アジア**、東京裁判、二・二六事件、**宮崎駿**、**京アニ**
- ⑤立命館大学大学院修了
日本近代文学の**思想的背景やナショナリズム**、アジア認識の変遷、さらには現代日本文化における**アニメーション表現**など、幅広く研究。近年では京都アニメーションや宮崎駿作品に見られる「少女」や「居場所」の表象を通じて、**現代日本文化の深層**を読み解く研究も展開。

＜一言コメント＞

現在は**三島由紀夫**について**著書を執筆中**です。関心は多岐にわたりますが、現在の文明や社会、価値観、イデオロギーによって周縁の領域に押し込められた思想や価値観、人間にいつも興味が向かっているようです。

近世文化史

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

有坂 道子（アリサカ ミチコ） 江戸時代の文人・知識人社会のありかたを研究



- ①文学部 歴史遺産学科
- ②教授
- ③修士（歴史学）
- ④**近世文化史・近世医学史**／文人、知識人社会、江戸期医学
- ⑤京都大学大学院 単位取得満期退学
江戸時代の大坂・京都を中心とした**文人・知識人社会のありかた**を研究しています。特に、学問や医療、芸術などに携わる人びとの交流関係に注目し、そのネットワークのなかで展開する彼らの活動が、**当時の文化形成にどのように寄与していたのか**を考えています。大坂で活躍した文人の**木村蒹葭堂**（きむらげんかどう）、京都に西洋医学を導入した家として知られる**小石家**などを研究対象としています。

＜一言コメント＞

古文書が語る歴史を通じて、今とは異なる学問社会のありかたを知ることができます。また、人と人のつながりがもたらす心の豊かさに気づくことができます。

日本史

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

後藤 敦史（ゴトウ アツシ） 世界史からひも解く日本開国の意義を研究



- ①文学部 歴史学科
- ②准教授
- ③博士（文学）
- ④日本史、日本近代史、幕末史／幕末政治、開国、海防、大阪湾台場
- ⑤大阪大学大学院修了

世界史からみた日本の開国史をテーマに研究。日本の資料と海外の資料を合わせて、その意義を探っている。

2022年からは高校で「歴史総合」の授業が開始予定だが、これは世界と日本の近現代史であり、その先駆けともいえるテーマといえる。

＜一言コメント＞

大阪湾には当時の「台場」の遺構が残っており、これを通じて幕末史のおもしろさを広めたいです。

野田 泰三（ノダ タイゾウ） 室町・戦国時代の京都周辺の政治史を研究



- ①文学部 歴史学科
- ②教授
- ③修士（文学）
- ④日本中世史／室町幕府、守護、地域権力、土豪、古文書学、賀茂別雷神社文書、京都
- ⑤京都大学大学院 単位取得満期退学

室町・戦国期の畿内周辺の政治史を研究。自治体史の編纂や古文書調査、賀茂別雷神社（上賀茂神社）による史料集編纂事業、史跡・名勝の保存管理計画の策定、歴史を学ぶ市民講座の運営支援に関わる。

＜一言コメント＞

最先端の研究成果を踏まえた日本中世史（室町・戦国時代史）の情報を提供することができます。

考古学

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

南 健太郎（ミナミ ケンタロウ） “水中考古学”から新たな歴史像を描く



- ①文学部 歴史遺産学科
 - ②准教授
 - ③博士（文学）
 - ④考古学／**水中考古学、城郭、青銅器、成分分析、地域連携、東アジア**
 - ⑤熊本大学大学院修了
- 東アジアの**水中考古学研究**を進めている。2022年から水中遺跡の調査に携わり、**大津市文化財保護課と連携して“滋賀県大津市坂本城跡”**の水陸を調査。幻の城と呼ばれる坂本城の実態解明に挑む。近年は**水中ドローン**などの最新機器を使用して、**水中遺跡の調査や保護**に携わる。

＜一言コメント＞

水中考古学はまだ日本で根付いていない分野ですが、水中には未だベールに包まれた歴史の一断片が沈んでいます。水中考古学から日本、そして世界の新たな歴史像を描いていきます。

図書館情報学

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

嶋田 学（シマダ マナブ） 図書館づくりのエキスパート



- ①文学部 歴史遺産学科
 - ②教授
 - ③修士（政策科学）
 - ④図書館情報学、人文社会情報学／**図書館を核としたまちづくり、市民自治を育てる公共図書館**
 - ⑤同志社大学大学院修了
- 地方自治経営、**住民自治と図書館の関係性**を研究しています。図書館は**コミュニティの課題解決やつながりづくり**に役立つ社会教育施設でありコミュニティ施設でもあります。ソーシャルキャピタルを形成する「**第三の場**」としての図書館の在り方、施設計画、経営論等を研究しています。

＜一言コメント＞

図書館の「基本構想」や「基本計画」の策定を市民協働によって行ってきました。自治体内の様々な部署や官民の多様な主体との連携による**地域づくり活動**にもコーディネーターとして関わっています。

英文学

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

アンガス, ノーマン (ANGUS, Norman) スコットランド独立運動と詩人の関わりについて研究



①国際英語学部 国際英語学科

②教授

③修士

④文学、英文学、翻訳／

スコットランド独立運動、スコットランド文学、マイノリティ言語

⑤ケンブリッジ大学大学院修了

スコットランドの独立運動や文化的アイデンティティと、詩人たちとの関わりについて研究を行っている。また、日本の詩歌（古典と近現代詩）を継続的に翻訳している。マイノリティ言語についても関心を持っている。

＜一言コメント＞

マイノリティ言語や死語が世界的に問題となっているにも関わらず、その深刻さはあまり知られていないため、その研究の必要性を感じています。

サステイナビリティ教育

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

早川 有香 (ハヤカワ ユカ) 環境のサステナビリティの社会実装を目指す



①国際英語学部 国際英語学科

②准教授

③博士（学術）

④国際関係学、サステナビリティ教育(ESD) /SDGs、ステークホルダー協働

⑤東京工業大学（現 東京科学大学）大学院修了

環境のサステナビリティと調和した社会経済活動には、多様なステークホルダーとの協働が不可欠。継続のインセンティブなどの観点から、ガバナンス・モデルの研究に取り組んでいる。

＜一言コメント＞

学生も、社会の重要なステークホルダーとして、資源循環や環境負荷低減に向けた行動変容や仕組みづくりに関わることが重要であると考えています。若い世代のエンパワメントと協働ガバナンスを連動させることで、環境のサステナビリティの社会実装に貢献していきたいと思っています。

教育

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

青木 美智子（アオキ ミチコ） 待機児童問題や公立園のあり方など、常に現場の課題と向き合う



- ①発達教育学部 児童教育学科
- ②准教授
- ③修士（教育学）
- ④教育学、幼児教育学、保育学／幼稚園、保育所(園)、認定こども園と地域の関係、保育者養成
- ⑤東京大学大学院 博士課程単位取得満期退学
保育・幼児教育を専門に、**子どもが健やかに育つ環境や保育者の育成、地域と園とのつながり**について研究。**保育政策への提言**や講演活動を通じて、**待機児童や公立園のあり方**など現場の課題に積極的に関わる。

＜一言コメント＞

大学では未来の保育者を育てる一方、**保育政策や制度設計**にも携わってきました。現場と学問をつなぐ立場から、**子どもと保育のよりよい未来づくり**を目指しています。

倉持 祐二（クラモチ ユウジ） 社会科教育実践のエキスパート



- ①発達教育学部 児童教育学科
- ②教授
- ③修士（教育学）
- ④社会科教育学、**社会科教育史**／社会科の教材、**教具の開発と授業づくり**、社会科教育実践の歴史
- ⑤大阪教育大学大学院修了
今、学校教育が大きく変わろうとしています。これまでの教育の成果を活かしながら、新しい時代に対応した教育が求められています。子どもたちの瞳かがやく明日を創りだす先生になるための教師教育を模索しています。

＜一言コメント＞

「むずかしいことをやさしく やさしいことをおもく おもしろいことをおもしろく」（井上ひさし）このようにしていくのが授業です。小学生が楽しく学ぶことができる教材をつくり、どのように教えるとおもしろくなるのかを考えていきたいと思っています。

防災

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

荻原 彰（オギハラ アキラ）川単独ではなく流域で考える「流域治水」による防災減災



①発達教育学部 児童教育学科

②教授

③博士（学校教育学）

④理科教育学／

地学教育、環境教育、自然災害教育

⑤上越教育大学大学院修了

川を川単独でなく流域でとらえる考え方、流域を単位として治水をとらえる
流域治水の考え方を教育の中に広げる研究を行っている。

＜一言コメント＞

温暖化により自然災害が激化している現在、災害対応は行政だけに任せるものでなく、
行政・教育機関・研究者・市民等が協力して防災・減災に取り組むことが大切です。

臨床心理学

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

大久保 千恵（オオクボ チエ） 人が健やかに幸福に過ごすための心理学



- ①総合心理学部 総合心理学科
- ②教授
- ③修士（社会健康医学）
- ④臨床心理学 臨床発達心理学 社会精神医学／
**発達障害、こどもからおとなまでのこころの問題、メンタルヘルス・リテラシー、
ストレスや発達障害とバイオマーカー、子育て支援**
- ⑤京都大学大学院修了
こころの問題や発達上の特性を抱えている方への**心理的ケア**や**子育て支援**
などに携わる中で**予防に努めることの必要性**を感じ、こころの健康増進や発
達上の問題についての支援に関わる研究行っている。**若者の自死予防活動**
にも関わる。

<一言コメント>

心理的支援は、悩み事を抱える方に対して提供することが可能ですが、
みなさんが**健やかに幸福に過ごすことのお手伝いとして提供**することも大事であると考えています。

濱田 智崇（ハマダ トモタカ） 日本初の男性のための電話相談開設



- ①総合心理学部 総合心理学科
- ②准教授
- ③修士（文学）
- ④臨床心理学／**男性の生きづらさ、男性の介護・ジェンダー、DV**
- ⑤甲南大学大学院修了

**日本で初めて、男性による男性のための電話相談室を開設し、25年に
わたって男性の心理的支援活動を実施。現代社会における男性の生き
づらさの軽減をめざして研究・実践を行っている。**

編著書に「男性は何をどう悩むのか—男性専用相談窓口から見る心理と
支援」（2018年 ミネルヴァ書房）。

<一言コメント>

男性のジェンダーに着目した研究や実践は、あまり例が多くない中、男性の結婚・子育て・介護など様々な
テーマでコメントすることができます。

社会心理学

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

山口 裕幸（ヤマグチ ヒロユキ） チーム力開発のプロフェッショナル



- ①総合心理学部 総合心理学科
- ②教授
- ③博士（教育心理学）
- ④社会心理学、組織行動学／**チームワーク、リーダーシップ、チーム・コミュニケーション、心理的安全性、組織の安全マネジメント、プロアクティブ行動と組織の持続可能性**
- ⑤九州大学大学院修了
健全で持続可能性の高いチームと組織を作る方法について科学的研究を行い、現場と相互協力して問題解決を図る**アクションリサーチ**に取り組む。**チームの心理的安全性、リスク察知力、プロアクティブ（先取り）行動**について研究を進めている。

<一言コメント>

うまく成果が出せず**閉塞感に苦しむチームや組織を元気づけ、生き生きと充実した活動へと後押し**するには、どんな働きかけが効果的なのか、社会心理学の視点に基づいて検討しています。

健康心理学

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

石山 裕菜（イシヤマ ユウナ） 環境設定が自己制御をどう支援するか探る



- ①総合心理学部 総合心理学科
- ②講師
- ③博士（心理学）
- ④健康心理学、教育心理学／ストレス・マネジメント、セルフ・マネジメント
若者支援、マインドセット、モチベーション、包括的性教育
- ⑤同志社大学大学院 単位取得満期退学
やりたいことややるべきことがわかっていても行動に移せないのは、心理学でいう「自己制御」の課題と関係している。自己制御とは、目標に向かって行動を調整する力であり、意志だけでなく**環境の工夫**も重要。こうした、**環境設定が自己制御をどう支援するか**を研究している。

<一言コメント>

ネガティブな感情やストレスは一見悪いものに思えますが、実は行動の手がかりになることがあります。
変わらないと思っていたことでも**心構えや環境によって変えられる可能性**があるところがこの研究の面白さです。

田中 芳幸（タナカ ヨシユキ） ストレス社会におけるより良い暮らしを追求



- ①総合心理学部 総合心理学科
- ②教授
- ③修士（臨床心理学）
- ④健康心理学、学校臨床心理学／ウェルビーイング、ストレス、スクール
カウンセリング
- ⑤久留米大学大学院修了
**ウェルビーイングやQOLなど人のポジティブ側面に関する研究および、
ストレスと健康への心理・社会的アプローチに関する研究を進めている。**
特に、幸福であることなど人のポジティブな心理状態が有する、**ストレスな
どのネガティブ面に対する効能**について関心を持つ。

<一言コメント>

心の症状やストレスなどといったネガティブなものを取り除くことを考えるばかりでなく、**幸せであることや強みの効能を
高めることでネガティブな事柄にも役立つという視点**に面白みを感じています。

キャリアデザイン

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

乾 明紀（イヌイ アキノリ） より有効なキャリアデザイン支援を考える



- ①経済学部 経済学科
- ②教授
- ③修士（人間科学）
- ④社会心理学／探究学習、キャリア教育、トランジション
- ⑤立命館大学大学院修了

社会の「当たり前」が揺らぎ、若者にこれまでなかった選択肢や機会が与えられる一方で、＜学校から仕事へ＞ ＜子どもから大人へ＞の移行が複雑になっている。その移行支援策である探究学習やキャリア教育について実践的・実証的に研究している。

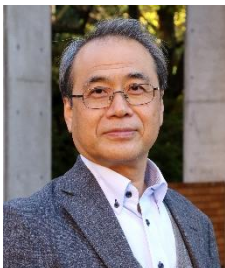
<一言コメント>

教員が一方的に知識を伝える伝統的な教育スタイルだけでは探究学習やキャリア教育は成立しません。学習者自身が環境を変え、自ら将来を展望していけるようなキャリアデザイン法を研究しています。

地域開発

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

岡田 知弘（オカダ トモヒロ） 地域経済研究のエキスパート



- ①経済学部 経済学科
- ②学長 教授
- ③博士（経済学）
- ④地域経済学／地域開発・地域づくり、地域内経済循環
- ⑤京都大学大学院修了

地域経済や地域づくりの研究を40年行っているエキスパート。
地域経済・社会を形成する中小企業、農家、地方自治体の再投資力と地域内経済循環をつくることで、地域づくりや災害復興が進むことを明らかにしている。

<一言コメント>

地域づくりや災害復興における自治体政策のあり方などについて、委託研究や講演なども多く行っています。

観光ビジネス

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

金武 創（カネタケ ハジメ） “保護”から“活用”に変化しつつある芸術文化資源



- ①経済学部 経済学科
- ②教授
- ③博士（経済学）
- ④文化経済学／文化遺産観光、文化政策
- ⑤京都大学大学院修了

日本の文化庁が、文化財保護から、芸術文化資源活用を目指す**文化政策へ転換**してきている点に注目し研究。

文化遺産を中心とする**京都観光**について、**駅から徒歩で周遊できる有形・無形の文化遺産ルートの構築手法**も検討中。

<一言コメント>

インバウンド観光の動向は長期的視点からの考察が必要である。短期的には国内客減少の危険性あり。

公共政策

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

阪本 崇（サカモト タカシ） 市場評価以上の価値を持つ教育・文化芸術



- ①経済学部 経済学科
- ②教授
- ③博士（経済学）
- ④財政学、文化経済学／
ボーモルのコスト病、芸術文化支援の根拠と所得連動型教育ローン
- ⑤京都大学大学院修了

アメリカの経済学者W.J.ボーモルが展開した「コスト病」の理論は、**教育や芸術文化、医療などは、生産の技術的特性から生産費が高騰するという性質があることを示している**。しかし、これらの財・サービスは**人々の生活に不可欠なものであり、そこに資源を投入していく必要がある**。それを実現する方法のひとつとして、**所得連動型教育ローンに注目**している。

<一言コメント>

所得連動型教育ローンのしくみは、日本学生支援機構の貸与型奨学金にも取り入れられるようになっています。

国際金融

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

矢口 満（ヤグチ ミツル） メガバンク・グループで30年金融調査に携わったプロ



- ①経済学部 経済学科
- ②教授（証券アナリスト、国際公認投資アナリスト）
- ③学士（経済学）
- ④国際金融論、ファイナンス／サステナブル・ファイナンス、グリーンボンド、欧州の金融・経済
- ⑤京都大学卒業

2021年春までメガバンク・グループで金融調査業務に携わってきた。中でも欧州通貨統合や欧州中央銀行に強く、最近ではEUが世界的に先行しているサステナブル・ファイナンスを探究中。

<一言コメント>

ドイツ駐在経験もあり、欧州の金融や経済事情に精通していますので、的確な解説が可能です。
またこれまでのキャリアを踏まえ、メガバンクの本音を「内部の眼」で説明することもできます。

国際経済

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

小山 大介（コヤマ ダイスケ） 企業動向から貿易問題まで語れる若手経済学者



- ①経済学部 経済学科
- ②教授
- ③博士（経済学）
- ④国際経済学／多国籍企業、グローバル経済、企業の海外進出
- ⑤京都大学大学院修了

経済のグローバル化により、さらに複雑になった日本企業の海外事業展開や、多国籍企業の動向をウオッチ。また政治・外交の影響を受ける日米、日中貿易問題なども継続的に探究中。

<一言コメント>

グローバル時代、ポスト・コロナ時代における地域経済の持続的発展の可能性を探っています。

国際政治

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

ランビーノ, パラガス (LAMBINO John XXV Paragas) **フィリピン出身の国際政治経済学者**



- ①経済学部 経済学科
- ②教授
- ③博士（経済学）
- ④国際政治経済学／**フィリピン社会経済、東南アジア経済**
- ⑤京都大学大学院修了

フィリピン北部パンガシナン州生まれ。「フィリピンをベースとした地域及び地域経済の再検討」「フィリピン経済の国内再投資力」「グローバリゼーションとフィリピン人の国際移動」などの論文実績、「アジアからの戦略的思考と新地政学」など共著での書籍実績を多数有する。

＜一言コメント＞

近年、地政学的に注目されている**フィリピン**に関して、**国際政治経済学の立場から日本語での取材対応・コメントが可能です。**

医療

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

高山 一夫 (タカヤマ カズオ) **米国の医療政策を深く研究、日米比較も**



- ①経済学部 経済学科
- ②教授
- ③博士（経済学）
- ④経済学／**米国の医療政策・医療経済・医療産業**、日米の医療制度比較
- ⑤京都大学大学院修了

米国の医療政策と医療経済、医療産業を、日米比較も念頭に置きながら研究。**特に米国独自の病院業**に関する研究を進めており、**医療政策、社会保障政策への変化**も視野に入れつつ、国内でも医療面から見た現代社会の諸問題を考察。

＜一言コメント＞

日本や米国の医療施設の経営や課題、医療政策、社会保障政策などについてコメントできます。

食・農業

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

平賀 緑（ヒラガ ミドリ） 食や農をめぐる社会科学を追求



- ①経済学部 経済学科
- ②准教授
- ③博士（経済学）、修士（食料栄養政策）
- ④**食の政治経済学**、食と資本主義の歴史、資本主義的食料システム、**食料政策**、フードポリシー、**アグリビジネス**、食の格差、**食の貧困**
- ⑤京都大学大学院修了、ロンドン市立大学大学院修了
食に関する政策や政治経済について幅広く研究している。著書に「食べものから学ぶ現代社会—私たちを動かす資本主義のカラクリ」（2024年岩波ジュニア新書）など。

<一言コメント>

食や農をめぐる社会科学という日本ではまだ確立していない研究潮流に加えて、**食や農、環境、政策提言やミュニシパリズム**に取り組む幅広い**市民活動**の経験も活かして、講演や執筆も行ってます。

サブカルチャー

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

牧 和生（マキ カズオ） サブカルチャーやオタク文化における経済学的な研究



- ①経済学部 経済学科
- ②准教授
- ③博士（経済学）
- ④行動経済学、現代アニメ文化論／**サブカルチャー、日常系アニメ**
- ⑤青山学院大学大学院修了
サブカルチャーの中でも比較的新しい**アニメコンテンツ消費やコンテンツツーリズム**などを**中心に研究**。同じコンテンツのファン同士が対立する現象も消費の心理面からアプローチしている。

<一言コメント>

男女問わずオタクと呼ばれる人の消費やこだわりについて理解しています。趣味として消費している財やサービスなども魅力的な研究対象となります。

アクティブラーニング

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

西野 毅朗（ニシノ タケロウ） 双方向性のある効果的な教育についての研究



- ①経営学部 経営学科
- ②准教授
- ③博士（教育文化学）
- ④教育学、高等教育論、教育工学／
ゼミナール教育、卒業研究教育、アクティブラーニング
- ⑤同志社大学大学院修了

大学における教育改革や教育改善を実現していくための研究をしている。
教員が一方通行で話すだけの伝統的な講義法から、**双方向性のある効果的な授業づくりについてFD・SD活動**をしたり、高等教育機関で講演やワークショップを行っている。

<一言コメント>

近年は、日本の教育法でもある**ゼミナール教育や卒業研究教育の可能性に注目**しています。

スポーツマーケティング

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

大野 宏之（オオノ ヒロユキ） スポーツと産業をマッチングさせ、新たなビジネスを生み出す



- ①経営学部 経営学科
- ②教授
- ③修士（経済学）、博士（工学）
- ④**スポーツマーケティング、商品開発・デザイン、プログラム・プロジェクトマネジメント**
- ⑤神戸大学大学院修了

スポーツ用品企業で長年にわたるプロダクト開発の経験を基に商品のライフサイクル（寿命）のマネジメント及び、**スポーツ選手などを起用したマーケティングや広告宣伝手法**の豊富な知見を有する。

<一言コメント>

スポーツマーケティングや商品開発のアプローチ、活動の起点となる**コンセプト発想手法**について、経済・経営学とデザイン工学の2つの視点をもって研究に取り組んでいます。

企業組織・制度

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

仙波 亮一（センバ リョウイチ） 非建設的行動の低減に有効なサポートを研究



- ①経営学部 経営学科
- ②准教授（社労保険労務士、行政書士、シニア産業カウンセラー）
- ③博士（マネジメント）
- ④経営学、組織行動論／ハラスメント、対人関係からの撤退、自己愛
- ⑤広島大学大学院修了

ハラスメントや対人関係からの撤退に代表される従業員の非建設的行動について予防的観点から研究。また最近では、アンガーマネジメントプログラムの有効性についても研究している。

<一言コメント>

従業員それぞれの自己愛タイプに合致した教育・指導法を探索。ストレスの多い現代社会の課題の解決を目指しています。

平尾 毅（ヒラオ タカシ） イノベーション研究で組織改革の糸口を



- ①経営学部 経営学科（経営学部長）
- ②教授
- ③博士（商学）
- ④経営史、イノベーション論／組織、制度変化、アントレプレナーシップ
- ⑤一橋大学大学院修了

イノベーションの成立過程を歴史的に研究。人々の間で共通認識として社会的現実がつくられるプロセスの考察を通じて、クリエイティビティの向上やビジネス課題解決のきっかけを目指す。

<一言コメント>

イノベーション・プロセスは、各国制度のダイバーシティをより深く理解するのに役立ちます。

CSR（企業の社会的責任）

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

松石 泰彦（マツイシ ヤスヒコ） 社会課題に向き合う企業の姿を追う



- ①経営学部 経営学科（現代ビジネス研究科長）
- ②教授
- ③博士（社会学）
- ④経営史、企業論／**CSR、SDGs、企業城下町史**、企業と社会課題解決
- ⑤一橋大学大学院修了
中小企業が町や地域に影響を与えてきた**企業城下町史**を通じて、**企業と社会のつながり**を研究。また**SDGsに対応するサステナブルな企業の戦略事例**も追究。

＜一言コメント＞

ビジネスと社会課題解決を両立できる新しい**CSRの姿**を検証・追究しています。

アントレプレナーシップ

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

丸山 一芳（マルヤマ カズヨシ） 地域産業活性化で期待されるオープンファクトリーに注目



- ①経営学部 経営学科
- ②教授
- ③博士（知識科学）
- ④経営学、**ベンチャー企業論**、イノベーション論／イノベーション、**伝統産業**、起業家
- ⑤北陸先端科学技術大学院大学修了
人と組織的プロセスに着目して、**アントレプレナーシップとイノベーション**を研究。また**中小企業が連携して取り組んでいる新たな地域活性化施策「オープンファクトリー」**に注目し、全国で調査している。

＜一言コメント＞

起業支援実務や起業コンテスト審査の経験を踏まえて、ベンチャー企業について考察することができます。

地域創生

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

木下 達文（キノシタ タツミ）文化芸術による教育支援・地域創生のプロ



- ①経営学部 経営学科
- ②教授
- ③修士（美学美術史）
- ④文化政策、文化資源論、文化施設マネジメント論、展示メディア論／
地域創生、博学連携、商品開発
- ⑤成城大学大学院修了

地域の様々な資源を再評価し、地域の魅力向上をはかっていくための研究とプロジェクト実践を多数展開。現在は、**アートプログラムを通じて美術館と学校・フリースクールを繋げる事業と、安土城再建（滋賀中核観光拠点整備）のプロジェクト**等に関わっている。

＜一言コメント＞

文化施設や博覧会等をプロデュースしていた経験を活かし、授業では本格的な商品開発やイベント実践に繋げる試み等を多様に行っています。

金融

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

近藤 隆則（コンドウ タカノリ）金融の根底にある行動経済学・人間学を掘り下げる



- ①経営学部 経営学科
- ②教授
- ③博士（商学）
- ④金融論、行動経済学／
**金融の根底にある人間学、政府の金融システムへの関与の効果
日本の家計の金融行動**
- ⑤一橋大学大学院修了

金融機関や政府に大きく依存している**金融システムは、それを動かす人間の行動そのものが重要**であり、**行動経済学**やさらに幅広い**人間学**を掘り下げることで、**人間の金融行動を実証的に明らかにすること**に関心を抱いている。

＜一言コメント＞

高齢化によって、若い世代を含むすべての日本人に**適切なリスク資産の保有と管理努力**が求められています。こうした**リスク資産保有の要因について実証研究**を行い、**正しい政策や制度設計に資すること**を目指しています。

国際経営

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

下門 直人（シモカド ナオト） なぜ多くの日本企業はインド進出で苦戦するのか



- ①経営学部 経営学科
- ②講師
- ③博士（経済学）
- ④経営学／インド経済、マーケティング論、流通論、新興国市場論、協同組合論、ソーシャル・ビジネス
- ⑤京都大学大学院修了
インドを対象とし、農村の貧困問題をはじめとした社会的課題はビジネスを通じて解決し得るのかという点から現地の協同組合や多国籍企業を事例とし研究を進めている。

＜一言コメント＞

長期的成長を続けるインドは日本企業にとって重要な市場になりつつあります。一方で、東アジアや東南アジアに比べインドでは多くの日本企業が苦戦しています。そのようなインドに進出した日本企業の事例研究からは様々な示唆が得られます。

社会政策

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

久本 憲夫（ヒサモト ノリオ） 働き方の研究から企業社会の在り方を模索



- ①経営学部 経営学科
- ②教授
- ③博士（経済学）
- ④社会政策、労働経済、人的資源管理、労使関係
- ⑤京都大学大学院修了
労働者の働き方に関心をもって研究を続けている。「正社員ルネサンス-多様な雇用から多様な正社員へ」（中公新書）や「新・正社員論」（中央経済社）など、正社員の働き方や夫婦共稼ぎモデルに関する書籍を刊行。

＜一言コメント＞

20年以上にわたって京都府参与（雇用創出・就業支援担当）として京都府政に関与しています。

精神看護学

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

川村 晃右（カワムラ コウスケ） 加熱式タバコの影響を研究



- ①看護学部 看護学科
- ②准教授（看護師、保健師、公認心理師）
- ③博士（保健看護学）
- ④精神看護学、衛生学／加熱式タバコの影響、ニコチン依存
- ⑤和歌山県立医科大学大学院修了

社会的に定着してきている加熱式タバコであるが、紙巻タバコから移行した場合の健康への影響についてを検証した報告はほとんどない。加熱式タバコを含む受動喫煙対策に関する研究を急務として探究している。

＜一言コメント＞

改正健康増進法により、多数の者が利用する施設のほとんどが禁煙となりました。望まない受動喫煙防止を図るための研究を進めています。

松本 賢哉（マツモト ケンヤ） 心の問題のエキスパート



- ①看護学部 看護学科
- ②教授
- ③博士（医科学）
- ④精神看護学／対人関係能力、統合失調症の病識、患者教育、ストレスコントロール
- ⑤山梨大学大学院修了

対人関係のトラブルやストレス認知などを分析することができ、看護の対象となる人との関係性を構築したうえで、その人の直面している困難に介入することを専門としている。

＜一言コメント＞

精神看護領域での実践経験から大学生の心の問題を扱うことが専門になりつつあります。

シミュレーション教育

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

野島 敬祐（ノジマ ケイスケ） 高度医療人材育成のためのシミュレーション教育



- ①看護学部 看護学科
- ②准教授
- ③博士（看護学）
- ④シミュレーション教育学、救急看護学、災害看護学／
シミュレーション教育、アクティブラーニング、トリアージ
- ⑤大阪府立大学大学院修了
学生が「効果的に楽しく学べる」をテーマとした教育方法について研究・実践している。学生が主体的に学べるシミュレーション教育を活用した授業や演習づくりについて探求している。

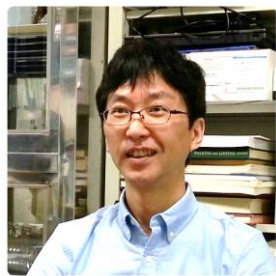
<一言コメント>

高度医療人材育成を目指したシミュレーション教育について焦点をあてています。

神経科学

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

崎田 正博（サキタ マサヒロ） 毛細血管研究で健康長寿に貢献



- ①健康科学部 理学療法学科
- ②教授（理学療法士）
- ③博士（人間環境学）
- ④神経科学／**加齢・老化、フレイル、アンチエイジング、毛細血管退行**
- ⑤九州大学大学院修了

神経や筋肉、毛細血管の老化に伴う委縮・変性について研究しており、その結果、**神経線維、筋肉繊維の前に毛細血管の衰えが先行すること**を明らかにした。このメカニズムをさらに研究することで、健康寿命の延伸を企図している。

<一言コメント>

研究をさらに進めて**神経や筋肉の老化を抑制できれば、さらに健康長寿化に貢献できる**と思います。

中野 英樹（ナカノ ヒデキ） 健康長寿社会の実現に資する最先端の脳機能研究を展開



- ①健康科学部 理学療法学科
- ②准教授（理学療法士）
- ③博士（健康科学）
- ④脳科学、神経科学／**ニューロリハビリテーション、脳機能、運動制御**
- ⑤畿央大学大学院修了

学部・大学院・海外研究機関にてヒトの脳機能研究に従事。脳科学・神経科学の知見を基盤として、運動・認知・精神心理機能に関わる**脳神経活動を可視化・操作し、高齢者や脳卒中者、認知症者の健康増進**を目指している。

<一言コメント>

脳機能計測法や脳神経操作法を用いて、健康長寿社会の実現に資する**最先端の脳機能研究を世界に向けて発信していきます。**

リハビリテーション科学

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

児玉 隆之（コダマ タカユキ） 脳波研究から“こころとからだ”を解明する



①健康科学部 理学療法学科

②教授（理学療法士）

③博士（医学）

④リハビリテーション科学／脳波、脳認知機能、脳卒中

⑤久留米大学大学院修了

20年以上にわたって脳波を研究。脳卒中や脳の外傷患者向けの「**脳機能の再編成**」を目指し、**治療ツール開発や臨床研究**も行っている。また**高齢者の認知機能をカンタンにチェックできるアプリも開発中**。

<一言コメント>

入眠や覚醒に関する研究、**匂いや触感**に対する情動研究など、**企業との共同研究（応用脳科学）事例も豊富**です。

作業療法

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

小川 敬之（オガワ ノリユキ） 高齢者・障害者問題に向き合う



- ①健康科学部 作業療法学科
- ②教授
- ③博士（医学）
- ④認知症のリハビリテーション、高齢者の社会参加・就労的活動、フレイル予防
- ⑤宮崎大学大学院修了
高齢者や障害を持たれている方々が働く（就労的活動）ことを通してフレイルの予防を推進していく仕組みの構築を企業と連携しながら実践している。

<一言コメント>

2つのNPO法人と水産加工会社の経営を研究活動と同時に行いながら、組織を活用した社会実験を行っています。

田丸 佳希（タマル ヨシキ） MCI（軽度認知障害）の早期発見を目指す



- ①健康科学部 作業療法学科
- ②教授
- ③博士（保健学）
- ④身体障がい作業療法、高齢期作業療法／認知症、脳卒中、
- ⑤大阪府立大学大学院修了
認知症の前段階であるMCI（軽度認知障害）の早期発見を目的に、迅速かつ簡便でありながら高精度なスクリーニングテストの開発に取り組む。現在はNEP(NEDO* Entrepreneurs Program)に参加し、研究成果の社会実装を通じて認知症予防への貢献が期待されている。

<一言コメント>

MCIを早期に発見するため、ゲーム感覚で楽しく取り組める新しいスクリーニングテストを開発しています。年齢や体調に関係なく誰でも気軽に受けられるため、認知症予防の第一歩として注目されています。

作業療法

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

原田 瞬（ハラダ シュン） 外部専門家活用による発達障がいの子どもの支援を研究



①健康科学部 作業療法学科

②専任講師

③修士（保健学）

④発達期作業療法学／

発達障がい 特別支援教育 作業療法

⑤大阪府立大学大学院修了

インクルーシブ教育が注目されているが、ひとりひとりの子どもに合わせた教育、支援を提供するための制度や体制には課題がある。学校教育領域においていかに外部専門家を活用するかについて、作業療法士の立場から研究している。

<一言コメント>

神経発達症の子どものつまずきに気づき、対応することは、全ての子どもが学びやすい学校環境を創ることにつながります。いかにして教育、福祉、医療の連携を深めていくかを考えています。

平本 憲二（ヒラモト ケンジ） 高齢化する障害者の家族間の関係を探る



①健康科学部 作業療法学科

②専任講師

③修士（学術）

④社会福祉学、作業療法学／

知的障害者の高齢化、成人の発達障害に対する作業療法

⑤放送大学大学院修了

中高齢期知的障害者の家族について研究を行っている。医療的ケアを必要とする中高齢期知的障害者をもつ母親ときょうだいに、インタビュー調査の協力を得て、家族と周囲の関係を研究している。高齢化する障害者とその家族に対する社会福祉は急務の課題と言える。

<一言コメント>

従来研究で不足しているのは、親の役割（特に母親のケア役割）が強調され、母親が障害のある子を抱え込むなかで、周囲との関係により家族間の問題をどのように捉えているか、その過程が殆ど検討されていない点にあります。

救急医学

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

大石 泰男（オオイシ ヤスオ） 救急医療の研究、指導普及に尽力



- ①健康科学部 救急救命学科
- ②教授
- ③博士（医学）
- ④救急医学、プライマリ・ケア／病院前救急医療体制、疾病救急、中毒
- ⑤兵庫医科大学修了

37年間救命センターにて救急医として勤める。現在は救急医療を含む**プライマリ・ケア**を研究しており、現場で医療処置を行うドクターカーでの現場出動の経験で培った知見を生かし、**病院前救急医療の指導普及**に携わっている。

<一言コメント>

救急患者さんの治療は病院到着前から開始する必要があります。救急救命士を目指す学生には、**救急医療を含むプライマリ・ケアの重要性を伝え、指導**にあたっています。

大槻 俊輔（オオツキ トシホ） 脳卒中患者の社会復帰に貢献



- ①健康科学部 救急救命学科
- ②教授
- ③博士（医学）
- ④**救急プライマリケア／脳梗塞、脳内出血、リハビリテーション、脳卒中と就業の両立支援、フレイル、冬眠**
- ⑤神戸大学修了

救急搬送から治療まで**時間との闘いの病気**である**脳卒中**について、**分子生物学的研究**を行い、**脳卒中治療ガイドラインの策定委員**も務める。そのほか、**認知機能低下やフレイルなど、合併症への社会啓発活動**にも携わっている。

<一言コメント>

“Time is Brain”三大死因疾患の一つで、かつて治らない、よく分からない疾患であった脳卒中も、現在は**劇的治癒が可能**になりました。「家を出よ、よく歩き、よく食べ、よく学ぼう！」を日々説いています。

救急医学

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

黒崎 久訓（クロサキ ヒサノリ） 救急救命士のアカデミック化を目指す



- ①健康科学部 救急救命学科
- ②准教授
- ③博士（医学）
- ④救急救命学、**救急救命士の研究実施環境、救急救命士教育／臨床研究、医学教育、救急医学**
- ⑤金沢大学大学院修了
救急救命士が置かれている**研究実施環境**について研究。研究にかかわる**教育の普及**や**研究法に関する教育プログラムの構築**についても研究している。

<一言コメント>

救急救命士がおこなう研究法の教育・指導法を探索。**救急救命士の更なるアカデミック化**を目指しています。

関根 和弘（セキネ カズヒロ） 地域の防災・減災にも携わる救急救命の実践家



- ①健康科学部 救急救命学科
- ②教授
- ③博士（救急救命学）
- ④救急救命学／プレホスピタルケア(病院前救護)、外傷初療、災害、シミュレーション教育
- ⑤国土舘大学大学院修了
危機管理全般から外傷や災害を中心に研究を行っている。**京都市や山科区との地域連携活動**も学科全体で携わっており、**災害への対策や防災・減災活動**を進めている。

<一言コメント>

日本臨床救急医学会(評議員)、日本災害医学会(評議員)、日本救急救命学会(理事)などの学会に所属。
毎日の生活の行動様式予防から受傷した際の処置まで、危機管理全般にわたり教育しています。

救急医学

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

益満 茜（マスミツ アカネ） DMATインストラクターであり、災害派遣も経験



- ①健康科学部 救急救命学科
- ②准教授
- ③学士（医学）
- ④**救急医療、災害医療**、プレホスピタル、法医学／心肺蘇生、死因究明
交通事故（側面衝突）
- ⑤和歌山県立医科大学修了
心肺蘇生による合併症や交通事故の重症化に寄与する因子等について研究。救急医としてドクターカーやヘリで現場に出動し、救急隊と連携した救急医療に従事。また、**統括DMAT、DMATインストラクター**の資格を有し、**実災害への派遣経験**がある。

<一言コメント>

救急医療と言っても**都市部と地方では状況が異なります**。経験をもとにその違いについて紹介することができます。

臨床検査

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

岡田 光貴（オカダ コウキ） 難病潰瘍性大腸炎、キノコなど食中毒の研究に挑戦



- ①健康科学部 臨床検査学科
- ②専任講師
- ③博士（人間健康科学）
- ④一般検査学、生化学、臨床化学／
潰瘍性大腸炎、食中毒
- ⑤京都大学大学院修了

原因不明の難病である潰瘍性大腸炎を抱えた患者は年々増え続けているため、**有用な検査法や治療法を開発**するべく日々研究を行なっている。キノコやフグ、ジャガイモの毒成分が原因の**食中毒に対する検査法の開発**にも取り組んでいる。

<一言コメント>

「自身の研究を突き詰め、患者さんの健康に貢献したい！」と常々考えながら研究に取り組んでいます。

須賀 淳子（スカ ジュンコ） がんゲノム医療の普及と質の向上に尽力



- ①健康科学部 臨床検査学科
- ②専任講師（臨床検査技師）
- ③博士（医学）
- ④臨床化学、一般検査学、ゲノム生物学、腫瘍生物学、治療学／**ホルモン受容体陽性乳癌、HER3、タンパク質分解、がんゲノム医療**
- ⑤福島県立医科大学大学院 単位取得満期退学

ホルモン受容体陽性乳癌におけるHER3、エストロゲン受容体の**細胞内分解のメカニズム**や**分解責任因子の役割**に関する研究。がんゲノム医療に6年ほど携わっており、臨床検査技師が**がんゲノム医療コーディネーター**として果たす役割について追及している。

<一言コメント>

がんゲノム医療（がん遺伝子パネル検査）やがんゲノム医療コーディネーターの役割、**検査室以外で活躍する臨床検査技師**の育成に力を入れています。

臨床検査

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

中村 竜也（ナカムラ タツヤ） 世界的問題「薬剤耐性菌」を四半世紀に渡り研究



- ①健康科学部 臨床検査学科
- ②教授
- ③博士（保健学）
- ④微生物検査学、感染制御学／
薬剤耐性菌、バイオインフォマティクス
- ⑤大阪大学大学院修了

25年以上にわたって薬剤耐性菌を研究。現在は、ヒト・環境・動物からの薬剤耐性菌の動向調査を行っており、それらの関係性について**ゲノム解析技術**を用いて研究している。また、**薬剤耐性菌検出の迅速化に向けた試薬の開発や企業との共同研究**を行っている。

<一言コメント>

皆さんの生活する身近なところにも抗菌薬が効かない微生物（薬剤耐性菌）が存在します。それらを明らかにし持続可能な社会を目指す研究をしています。

藤原 麻有（フジワラ マユ） 身近な薬剤耐性菌を解析



- ①健康科学部 臨床検査学科
- ②専任講師（臨床検査技師）
- ③博士（保健学）
- ④微生物検査学、細菌学／**薬剤耐性菌、ワンヘルス、選択培地**
- ⑤神戸大学大学院修了

世界中で問題になっている**薬剤耐性菌（薬が効かない菌）**が、最近では**身近な生活環境からも検出**され始めている。菌の解析・調査から、誰もがアクセスできる身近な環境にどのようなリスクがあるのか、その要因を探り、解決につなげようと研究を進めている。

<一言コメント>

日常生活のすぐそばに潜んでいるリスクを調べ、薬剤耐性菌への対応に役立てたいと思います。

医科学・分子生物学

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

胡 迪 (コ テキ) 国内約30万人の慢性疲労患者を救う研究に取り組む



- ①健康科学部 臨床検査学科
- ②助教
- ③博士（医学）
- ④内分泌・代謝学、医化学、分子生物学、環境生理学／
慢性疲労、神経免疫、ストレス、食欲ホルモン、血中バイオマーカー
- ⑤大阪大学大学院修了
疲労の慢性化形成メカニズムの解明に関する研究をしている。また、疲労時体内に発生する**酸化ストレス**が慢性化につながる可能性があるとして、**酸化ストレス**是正による**抗疲労・抗炎症効果**の研究も行う。

＜一言コメント＞

慢性疲労の**国内患者数は約30万人、重症者はその3割**とされ、寝たきりになってしまう患者もいます。多くの患者は「怠けているだけじゃないか」といった心ない言葉を浴びてきました。そんな患者たちを救うため、**慢性疲労症候群形成のメカニズムを解明し、患者に根治できる治療への貢献**に取り組んでいます。

臨床工学

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

高橋 純子 (タカハシ ジュンコ) 災害時や日常生活において命を守る支援



- ①健康科学部 臨床検査学科
- ②教授（看護師、臨床工学技士）
- ③博士（保健学）
- ④生体医工学を応用した**災害医療**、患者支援、**医工連携**／医療安全、透析患者支援、在宅療養支援
- ⑤金沢大学大学院修了
災害医療、医療安全、患者のQOL向上に関する実践的な研究を行っている。血液透析患者向けの低カリウム非常食「**寄り添うデザート**」や在宅人工呼吸器使用者向けの「**緊急医療手帳アプリ**」を開発するなど、**医療現場のニーズと生活者の視点をつなぐ工夫**を重ねている。

＜一言コメント＞

医療を「特別なもの」ではなく「**身近な支え**」として捉え直す機会の創出を目指しています。現在は、**災害時要配慮者の速やかな福祉避難所への誘導**を目的としたソフトを開発しています。

京都橘大学

<https://www.tachibana-u.ac.jp/>

■お問い合わせ先

広報課

TEL : 075-574-4112(直通)

Eメール : pub@tachibana-u.ac.jp

本学教員の情報はホームページでもご覧いただけます。

<https://kenkyu.tachibana-u.ac.jp/ktuhp/KgApp>

